

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 (3) ～中学校～
				領域名	カリキュラム・マネジメント
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (3) 資質・能力を育むために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質を高める実践研究 (効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究)				
学校名 (児童・生徒数)	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校 (317 人)				
所在地 (電話番号)	北海道函館市美原 3 丁目 48 番 6 号 (0138-46-2233)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_chu/				
研究のキーワード	育成を目指す資質・能力, 総合的な学習の時間, 指導計画等, ヒアリング調査				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校として育成を目指す資質・能力を設定し、総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムを構築することができた。 ○ 教科担当者へのヒアリング調査によって、具体的なカリキュラムの評価のための資料や改善の具体を把握することができた。 ○ 本校が育成を目指す「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」について、各教科での学びと総合的な学習の時間での学びとの往還によって、自らの資質・能力の高まりを実感している生徒の様子が見られる。 ○ ヒアリング調査の充実 (学年主任を対象にしたり, 学期に 1 回の頻度にししたりする) と全教員での協議による共通理解等の深まりが必要である。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

資質・能力の育成を実現するための効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究

(2) 研究主題設定の理由

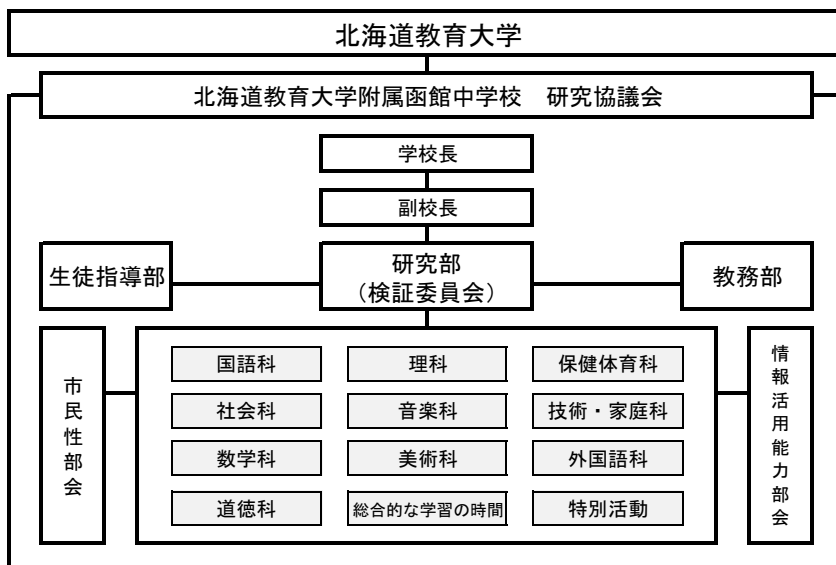
1) 研究の経緯と課題

- ・本校は、平成29年度から「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」を学校研究主題として設定し、3年間の実践研究に取り組んでいる。
- ・平成29年度は、『『学びの地図』に基づいた各教科等の単元のデザイン』という副題の下、まず、学校として育成を目指す資質・能力として「各教科等において育まれる資質・能力」、「情報活用能力」、「市民として求められる資質・能力」(「市民」とは、本校が「主体的・能動的に事柄に関わり、自ら社会へと働きかけ、参画する存在」として設定したものである。)を設定した。
- ・上記の3つの資質・能力を教科等横断的に育成するために、各教科等の指導計画等を共通の様式で作成した(「年間単元配列シート」:3年間のどの時期にどのような単元の学習を行っているかを明らかにしたもの、「資質・能力シート」:どの単元でどの資質・能力の育成を目指すのかを明らかにしたもの、「単元デザインシート」:各単元の指導計画。なお、これらをあわせて「指導計画等」とする。)
- ・編成及び実践した教育活動に対する多角的な評価の実施や、評価を活用した改善について、組織的に取り組むことを課題とした。

2) 研究の目的

- ・本研究は、中学校において、資質・能力の育成を実現するための効果的なカリキュラム・マネジメントの在り方に関する実践研究を行う。

(3) 研究体制



本研究は、北海道教育大学の下、全教員で構成される研究協議会を中心に取り組むこととする。「各教科等において育まれる資質・能力」については主として各教科等の担当者が取りまとめを行い、「情報活用能力」、「市民として求められる資質・能力」については研究部が中心となって連絡調整や取りまとめを行うこととする。また、研究部と北海道教育大学の教員等によって構成される「検証委員会」を設置し、本研究の進捗状況を適宜把握しながら、検証を行う。

(4) 1年目の主な取組

平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の実践に基づく、平成30年度指導計画等の作成。(5月) ・指導計画等に基づいた実践。(5月～7月, 8月～12月, 1月) ・教育研究大会における本研究に関する提案及び評価・改善に関する協議。(6月15日) ・1学期の実践を踏まえた指導計画等の改善案の作成。(8月) ・検証委員会による教科担当者を対象にしたヒアリング調査の実施。(国語:12月10日, 数学:12月10日, 社会:12月4日, 理科:12月11日, 美術:12月11日, 保健体育:11月28日, 外国語科:12月6日) ・生徒を対象にした本研究に関する意識調査の実施。(12月19日)
----------------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

平成29年度の授業実践や学校研究に関する研究成果及び課題を踏まえて、全ての教科等で、資質・能力の育成を実現するための意図的・計画的な指導計画の在り方、実践を多角的に評価する仕組みの構築と評価を踏まえた指導計画等の改善の過程に焦点を当てた研究に取り組む。

①カリキュラム・デザイン

- 1) 学校教育目標等を統合するスローガンの設定と、本校が育成を目指す資質・能力や総合的な学習の時間との関わりについての整理
- 2) いつ、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明らかにした指導計画等の作成
- 3) 教科等横断的な「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」の育成を実現するために、各教科等の関連が分かる表の作成

②PDC Aサイクル

- 4) 各教科担当者に対するヒアリング調査の実施
- 5) 生徒に対する意識調査(質問紙調査)の実施
- 6) カリキュラムの評価を踏まえたカリキュラムの改善

③内外リソースの活用

- 7) 総合的な学習の時間における様々な分野の専門家による講演会の実施

(2) 具体的な研究活動

①カリキュラム・デザイン

- 1) 学校教育目標等を統合するスローガンの設定と、本校が育成を目指す資質・能力や総合的な学習の時間との関わりについての整理

本校の学校教育目標と総合的な学習の時間の目標を統合するスローガンとして、「問い続け、行動し続ける 15 歳」を設定した。そして、本校が育成を目指す資質・能力として設定した「各教科等で育成する資質・能力」、「情報活用能力」、「市民として求められる資質・能力」は、問い続け、行動し続ける 15 歳」のために必要な資質・能力であると位置付けた。そのため、総合的な学習の時間のカリキュラムを再構成した。具体的には、生徒の興味や関心に基づいた探究的な学習の過程をスパイラルに3年間で3回展開することとした。すなわち、本校で育成を目指す資質・能力は、各教科等での学びと総合的な学習の時間での学びとの往還によって実現できる、という整理を行なった。

2) いつ、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明らかにした指導計画等の作成

平成 29 年度の授業実践や学校研究に関する成果及び課題を踏まえて、平成 30 年度の指導計画等を作成した。特に、「資質・能力シート」における「教科等において育成を目指す資質・能力」については、新学習指導要領を見据えて設定した。また、「情報活用能力」や「市民として求められる資質・能力」については、学習内容等を鑑みて、それらの資質・能力の育成に向けたアプローチが適切であると考えた単元のみ限定して設定した。

また、単元という一つの大きなまとまりでの資質・能力の育成を目指すために、「単元デザインシート」を作成した。ここでは、単元で育成を目指す資質・能力の達成状況を把握するための評価規準や学習内容等を示した。さらに、単元を評価し改善するために得ようとする評価資料を事前に明らかにするとともに、いずれの時間においてその収集を行うのかを明示して、意図的・計画的な評価資料の収集を図った。

3) 教科等横断的な「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」の育成を実現するための、各教科等の関連が分かる表の作成

2) において作成された各教科等の全単元の「資質・能力シート」から「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」を再整理し、各教科等の関連が分かる表を作成した。また、この表には、各教科等での具体的な学習活動を含めて示すこととし、「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」のそれぞれについて、いつ、どの教科でどのような資質・能力の育成に向けたアプローチが、どのようになされているのかを共有するための方策とした。

②PDCAサイクル

4) 各教科担当者に対するヒアリング調査の実施

カリキュラムの評価・改善のための取組の状況を把握するために、検証委員会によるヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査は、各教科担当者を対象として、1教科につき1時間程度実施した。検証委員会は、北海道教育大学の教育課程の研究者、本校副校長、本校研究主任の3名で構成した。主な調査内容は、以下の3点である。

- ・カリキュラムの評価のために各教科等が「単元デザインシート」に明示した評価資料が、カリキュラムを評価するための資料としての適切であったか。また、評価を踏まえたカリキュラムの改善がどのように行われたか。
- ・「資質・能力シート」で設定した資質・能力について、その単元で育成を目指すことが適切であったか。また、評価を踏まえた「年間単元配列シート」の改善がどのように行われたか。
- ・各教科等の学習内容および学習方法と総合的な学習の時間にはどのような関連があるか。

5) 生徒に対する意識調査（質問紙調査）の実施

本校が育成を目指す「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」に関する生徒の意識を把握するために、質問紙による意識調査を実施した。主な調査内容は、以下の3点である。回答は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」から選択させ、それぞれの回答理由を問うた。

- ・課題を解決するために集めた様々な情報をいろいろな角度から見たり、課題解決のためにふさわしい情報を選択・組み合わせたりしている。
- ・資料を作成したり発表を準備したりするときには、これまで学習した知識や技能を活用したり、伝える相手や状況を意識したりしている。
- ・課題の解決に向けて、根拠を持って主張するなどして、仲間とともに合意を形成しようとしている。

6) カリキュラムの評価を踏まえたカリキュラムの改善

「単元デザインシート」に明示した評価資料を用いて、教科ごとにカリキュラム改善を実施した。特に平成 30 年度内に平成 31 年度の指導計画等を作成するとともに、「年間単元配列シート」との関連が分かる「資質・能力シート」及び「単元デザインシート」を再整理している。

③内外リソースの活用

7) 総合的な学習の時間における様々な分野の専門家による講演会の実施

探究的な学習の過程の「課題の設定」と「情報の収集」のために、大学教員や地域で活躍する方を講師として招へいし、様々な分野の専門家による講演会を 5 回実施した。

(3) PDCA サイクルへの取組について

意識調査は(2)②5)で述べた内容等で実施した。特に、回答理由の記述を分析したところ、主に総合的な学習の時間での学びによって、本校が育成を目指す資質・能力が高まっていると生徒が実感している様子が見られた。また、各教科において、資質・能力を育成するための取組が展開されていることを生徒が実感している様子が明らかとなった。今後は、各教科で展開されている資質・能力を育成する取組とその関連を整理し、カリキュラムの改善へ活用することが課題である。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 学校教育目標に基づいて、育成を目指す生徒の姿と資質・能力を明らかにするとともに、その実現のために総合的な学習の時間を核として位置付けることによって、学校の教育活動全体を大きく整理することができた。
- 教科担当者へのヒアリング調査によって、具体的なカリキュラムの評価のための資料や改善の具体を把握することができた。また、全職員が参加する研究協議会に比べて、少人数で実施するヒアリング調査では、教科等の特徴などを踏まえた議論を深めることができ、全校体制でカリキュラム・マネジメントを展開するためには、共通して取り組む事柄と教科等に応じた事柄の 2 つの側面からのアプローチが必要であることが明らかとなった。
- 本校が育成を目指す「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」について、各教科での学びと総合的な学習の時間での学びとの往還によって、高まりを実感している生徒の様子が見られる。これは、総合的な学習の時間における各学習内容(3年間で3回のサイクル)を終えるごとに実施する自己評価や、学期ごとに実施する意識調査(生徒質問紙調査)から明らかとなっている。
- 学年主任を対象にして、特に道徳科や総合的な学習の時間、特別活動に関するヒアリング調査を実施する必要がある。平成 30 年度は教科に特化した取組となったため、全ての教育活動で資質・能力の育成を実現するカリキュラム・マネジメントのために、教科担当者とともに学年主任を対象にしたヒアリング調査を実施する。
- ヒアリング調査を学期に 1 回の頻度で実施するとともに、全教員で協議する機会を設定することを通して、本校が育成を目指す生徒の姿や資質・能力に関しての共通理解を図るとともに、それぞれのアプローチを交流する機会とする必要がある。この点は研究協議会でも多く指摘いただいた点であり、具体的な方策を検討・実施する。
- 研究協議会では、教員の入れ替わりがあっても継続できる体制づくりの必要性や指導計画等の簡素化などの必要性が指摘された。カリキュラムの評価・改善を組織的かつ継続的に取り組んでいくための重要な点として実施する。

4 今後の取組

平成 30 年度の研究結果を踏まえ、平成 31 年度は、カリキュラムの評価・改善を組織的かつ継続的に取り組んでいくために必要な工夫や体制を検討する。その際、全校での共通した取組とともに、各教科等の学習内容等を考慮した評価方法について具体的に整理する。